

歴史上の事実について書くのは傲慢なことだ。

述語は日本語を参考にすると、「傲慢なことだ」を英語で表したものです。arrogant ですね。

▪ **It is arrogant to DO 「DO するのは傲慢だ」**

という用法です。ちょっと難しかったかもしれません。

(1) **It is arrogant to DO**

【傲慢な行為】である DO には「歴史上の事実について書く」に当たる表現が入ります。「書く」から、

▪ **S write about A 「S は A について書く」**

が使えるそうです。【書くテーマ】である A には「歴史上の事実」から、facts が入れられそうです。

(2) **It is arrogant to write about facts**

歴史上の

最後に「歴史上の」です。on history とは。。。どうやら言わないようです。なので、「歴史」関係の英語表現を頭の中で探してみると、

▪ **historical 「歴史的な」**

が浮かんできました。あながち悪くもなさそうです。なのでこれを使うことにします。

(3) **It is arrogant to write about historical facts.**

Model Answer

It is arrogant to write about historical facts.

ペンを持つ人間は、既にすべてが終わっている特権的な場所から、実際には見ていないことを、まるで見てきたように書くのだから。

この文は、「から」で終わっていることからわかるように、1文目の理由になっています。

- **This is because (S)(V) 「(S)(V)だからだ」**

で表現することも考えられますが、とにかく、「ペンは～書く」までが長い！！しかも、修飾関係が複雑！！

英語では、ある文の理由を説明する際に、ピリオドで切って、その次に独立した文としておくことが許されます。複雑さをより軽減するために、**This is because (S)(V)** は使わずに、そのまま文として表現することにします。

A. ペンを持つ人間は、実際には見ていないことを、書く。

述語は「書く」をヒントに、

▪ S write A 「S は A を書く」

を使います。【書く主体】である「ペンを持つ人間」は、この文の中では【ただペンを持っている】のではなく、【歴史について表現する人】というイメージです。historians や、「ペン」から【書く】というイメージを浮かべ、**those who write about history** でもいいと思います。今回は後者を採用します。

(1) those who write about history write A

【書く内容】である「実際には見ていないこと」は、いわゆる関係詞の **what** を使って書けそうです。「彼が言ったこと」が **what he said**。そこから、「彼が見なかったこと」は **what he didn't see**、「彼」を「ペンを持つ人」にすると 2 回目なので **he** は **they**、「実際に」の **actually** をつけ足し、**what they actually didn't see** になります。

(2) those who write about history write what they actually didn't see

B. 既にすべてが終わっている特権的な場所から、

修飾表現なので、つなぎの語句からです。

(a) 特権的な場所から

末尾を見ると「から」があるので、

- from A 「A から」

を使います。

(3) from A

【起点】である A には「特権的な場所」に当たるものを英語で表現します。「場所」は、【物理的な場所】ではなく、【その人が置かれている状況】に近いものです。これは **place** でも表せるのですが、ここでは **position** を使います。また、【1つの場所】の想定と、【2つ以上の場所】の想定、両方ともあり得ると思います。ここでは **a position** にしました。

(4) from a position

「特権的な」は **privileged** は相当難しいですよ（実際今、スペルを打っていて、間違えてしまいました！）。確実な表現を探すプロセスをお見せします。そのために、「特権的な」のイメージを丁寧に浮かべます。会社などと言うと部長だったり、昔のある国だと貴族だったり、【普通一般とは違っている】感じがします。これを表現できるレパトリーの中から探してみると、**special** が浮かんできました。

(5) from a special position

「特権的な」と比べて、多少イメージが劣化しますが、これくらいしか出すことができませんでした。入試では、実際にどう評価されるかわかりません。**privileged** は書けるようにしておくに越したことはないですが、書けなかったときの対処も身に付けておきましょう。

(b) **既にすべてが終わっている**

「場所」を修飾する関係詞節が作れそうです。節は(S)(V)の構造をしたものです。述語から取り組みます。

日本語を参考にして、「終わっている」を述語にしようと思いました。

▪ S end 「Sは終わる」

ですね。【**終わっているもの**】である S にはいろいろ候補があると思いますが、**everything** を入れます。この文の中では、【**もう終わっている状態**】なので、現在完了形を用い、「すでに」を **already** にします。

(6) **everything has already ended**

関係詞として **where** を選びます。

(c) (a) + (b)

関係詞節である(6)を、先行詞である(5) **from a special position** の後ろに入れます。

(7) **from a special position where everything has already ended**

C. まるで見えてきたように

つなぎの表現は、「ように」から、

- **as if (S)(V) 「まるで(S)(V)するように」**
です。

(8) **as if (S)(V)**

「見えてきた」から、(S)(V)には、

- **S see A 「S は A を見る」**
を使います。

(9) **as if S see A**

【見る主体】である **S** には、「ペンを持つ人間」に当たるものが入りますが、もうすでに表現しているのもので **they** にします。**【見る対象】**である **A** には **everything** に当たるものが入ります。2 回目なので **it** を入れません。

(10) **as if they see it**

最後に仮定法の処理をします。「見えてきた」から判断できるように、**【過去】**の出来事の**【非現実】**です。過去完了形を使います。

(11) **as if they had seen it**

D. A. + B. + C.

最後に(7) **from a special position where everything has already ended** と(11)を(2) **those who write about history write what they actually didn't see** に修飾させます。

(12) **Those who write history write what they actually didn't see, from a special position where everything has already ended, as if they had seen it.**

from A は、【場所】に近いものを表現する場合は、あまり文頭に表現されているのを見たことがないので、(2)の後ろに置きました。主節の中心である **write** を修飾しているということを積極的に表したかったため、直前を修飾しないというのを表すためにカンマを挟んでいます。

また、**as if (S)(V)**も似たような操作をしています。主節の前に置いた場合、その中に使われている代名詞とそれを指示するものの順番がバラバラになってしまうので、後ろに置いています。離れすぎているかもしれないという懸念があったんですけどね。直前の **has already ended** を修飾していないことを表すためにカンマを入れ込んでいます。

Model Answer

Those who write history write what they actually didn't see, from a special position where everything has already ended, as if they had actually seen it.